

港区
みどりの街づくり賞
景観街づくり賞
区民景観セレクション

2021



令和3(2021)年度 受賞施設等

目次

港区みどりの街づくり賞 受賞施設	01
Hi-NODE TOKYO HiNODE PiER	
日本ベッド製造株式会社	
The Okura Tokyo 及び 大倉集古館	
審査会委員総評（港区みどりの街づくり賞）	04
港区景観街づくり賞 受賞施設	05
BOATRACE六本木	
ルネ麻布十番ビル	
港区景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設	07
Wellith One Aoyama	
ナインアワーズ浜松町	
港区景観街づくり賞 特別賞 受賞団体	09
港区アドプト・プログラム—道路・公園のボランティア活動	
審査会委員総評（港区景観街づくり賞）	10
港区区民景観セレクション 受賞景観	11
新芝運河沿緑地（みなとパーク芝浦付近）《グランプリ》	
有栖川宮記念公園の水辺	
檜町公園の水辺	
新芝運河とウォータータクシー	
芝浦西運河（渚橋の近くから）	
レインボーブリッジから見る芝浦埠頭	
レインボーブリッジのループ橋（海岸三丁目から）	
レインボーブリッジのループ橋とスカイライン	
芝浦中央公園の水辺	
旧芝離宮恩賜庭園（西湖の堤とポートデッキ）	
青山霊園とスカイライン	
審査会委員総評（港区区民景観セレクション）	16

港区みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の緑化施設を表彰し、地域緑化への協力を感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設しました。

対 象	原則として、前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を満たしているもの
審査・選定基準	学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する港区みどりの街づくり賞選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周辺の景観と調和し、優れたデザインであること／②維持管理が適切に行われていること／③自然環境の保護と再生に努めていること／④建築物と植栽地がバランスよく配置されていること／⑤既存樹木を活用していること／⑥あらゆる生きものが、相互に関わり合いながら生きられる生物多様性に配慮した植栽計画となっていること／⑦在来植物を取り入れていること／⑧地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献度及びみどりの公開性が高いこと／⑨先進的又は総合的にレベルの高い緑化技術を取り入れ、新しい緑の創出に創意工夫がなされていること

港区景観街づくり賞とは

港区では、平成21年に港区景観条例を施行し、同年に港区景観計画を策定しました。これらの条例・計画に基づき、建築物の建築等の際に区との景観協議を義務付け、助言・指導を行っています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観の形成に関して功績のあった民間の施設や活動を表彰することで、皆さんの景観に対する意識の向上を図るとともに魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

港区景観街づくり賞・景観街づくり賞奨励賞

対 象	区と景観協議を行った民間施設のうち、前々年度に完了報告書が提出されたもの
審査・選定基準	港区景観審議会委員、港区景観アドバイザー及び街づくり支援部長で組織する港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの／②建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの／③地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの／④地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの／⑤都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの
そ の 他	特に優れていると認める施設を「港区景観街づくり賞」に、より一層の良好な景観形成を期待する施設を「港区景観街づくり賞奨励賞」に選定し、各受賞者に記念品を贈呈します。

港区景観街づくり賞特別賞

港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

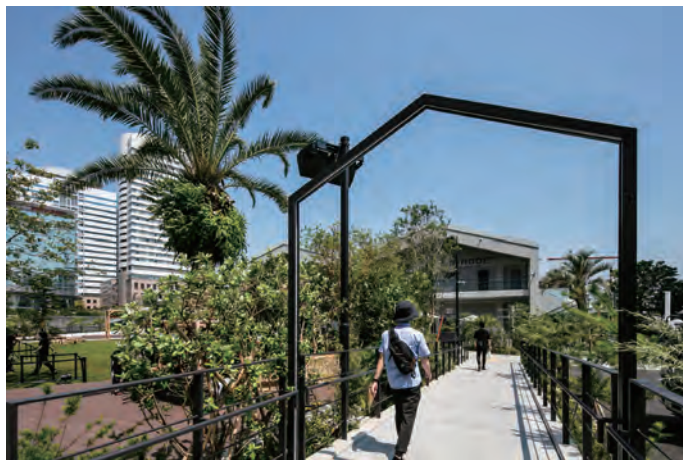
港区区民景観セレクションとは

「港区区民景観セレクション」は、区民が誇り、愛着を持つ景観を募集・表彰することで、良好な景観の周知・共有を図るため、平成29年度に創設しました。

対 象	「区民が誇り、愛着を持つ街並みその他の景観」として区民等により応募されたもの
審査・選定基準	港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①地域性が感じられるもの／②波及性があるもの／③発見性があるもの
そ の 他	グランプリを選び、その応募者に記念品を贈呈します。

Hi-NODE TOKYO HiNODE PIER

事業主：野村不動産ビルディング株式会社
設計者：野村不動産株式会社一級建築士事務所
外構基本計画：株式会社DAISHIZEN(SOLSO)
照明計画：株式会社I.C.O.N. 石井リーサ明理
施工者：株式会社イチケン 東京支店
所在地：海岸二丁目7番103号
施設用途：船客待合所・飲食店舗
敷地面積：2,749.55㎡
緑化面積：198.28㎡
接道部緑化延長：43.59m
緑化面積率：7.21%
接道部緑化率：85.59%



選定にあたっての評価コメント

商業施設の緑化は、目新しさ、インパクトを求められがちだが、それがうまくハマった例といえる。ここ数年流行っている、トロピカル系、オージー系なものを取り入れ、訪れた人に非日常感を与え、倉庫が多く無機質な海岸地区のイメージを変えた。審査会で人工芝の広場について景観としてどうかと話があったが、天然芝を維持するパワーを他の景観を維持することに使い、イベント広場として機能するのであれば街の新たな装置としてありといえる。



日本ベッド製造株式会社

事業主：日本ベッド製造株式会社
設計者：株式会社富士工一級建築士事務所
施工者：株式会社富士工
株式会社DO THE GARDEN(植栽)
所在地：南青山二丁目10番2号
施設用途：本社屋及びショールーム
敷地面積：397.29㎡
緑化面積：35.36㎡
接道部緑化延長：12.46m
緑化面積率：8.90%
接道部緑化率：31.47%



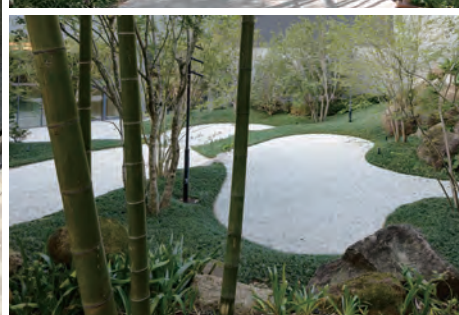
選定にあたっての評価コメント

5階建の建築は今日ではさ程大きなものではない。先づ目に入ってきたのは清潔感。ひかえ目な緑と建物とのソフトな調和からくる魅力だ。植栽樹種も多岐にわたり、野鳥や昆虫などの誘致を意識した生態系への配慮。さらには多くの斑入り植物の導入にも、限られた植物による変化を求める心遣いが感じられ好感が持てる。また屋上部分の植物の植栽の土量も十二分に用意されており、生気に満ちた植物たちの姿に接することができ、生きものへの愛情すら察することができる。



The Okura Tokyo 及び 大倉集古館

事業主：株式会社ホテルオークラ、公益財団法人 大倉文化財団、葵町特定目的会社
設計者：【オークラスクエア】谷口建築設計研究所
【オークラ庭園・オークラスクエア】大成建設株式会社一級建築士事務所
施工者：大成建設株式会社、【オークラスクエア】箱根植木、日比谷アメニス
【オークラ庭園】日比谷アメニス、岩城
所在地：虎ノ門二丁目10番4号
施設用途：【The Okura Tokyo】ホテル、事務所、店舗、駐車場【大倉集古館】美術館
敷地面積：20,020.00㎡
緑化面積：6,783.52㎡
接道部緑化延長：343.93m
緑化面積率：30.81%
接道部緑化率：88.00%



選定にあたっての評価コメント

地域特有の高低差のある地形を生かし、これまでの歴史的生態環境を日本的自然景観が体感できる「水と緑」の物語として、新たな風景を展開させた庭園は見事である。庭園は質の高い公共空間として地域に開放され、季節の樹木や草地景観も魅力的で季節の花々も心地よい。人工地盤技術、植生の継続観察の姿勢にも感心する。また、隣接する公園も一体的な設えで整備され、季節の樹木に彩られた散策路や憩いの場は、官民のボーダレスな景観形成として、今後の好事例ともなる。



審査会委員総評

住む人、訪れる人に愛されるコモンスペースをめざして

今回の受賞対象となったものの一つに植栽する特定の材料の生育実験をし、これを確認の上、植栽するという事例があった。作り手の心意気が伝わってくる。老舗ホテルのリニューアルの機会に、もともと開放されていた庭園部分をブラッシュアップし、かつて広い駐車場だった空間を見事な庭園に変貌させている。老舗ホテルだけに世界からのお客様を迎えるための空間作りを追求されているが、その雰囲気、そこを散歩する人々にも味わえる。もう一つは、東京湾に面している。埋め立てによって海岸線が遠のいていて久しいが、日の出桟橋にできたおしゃれなポイントになっている。海に接しているだけに植栽には厳しい生育条件だが、使う植栽の工夫によって湾岸のオアシスとなっている。最後の一つは、オーナーの気持ちが緑の扱いに出ているのだろうか。規模は大きくはないけれど、この建物と植栽のコンビネーションは、やがて素敵な街角の形成に貢献することになるだろう。



赤坂 信

千葉大学 名誉教授



高橋 雅雄

公益社団法人
観音崎自然博物館
元理事長
技術士(都市計画)

竣工式の日が起工式の日

このみどりの街づくり賞制度も間もなく20年目を迎えようとしている。その間の受賞作品をふり返ると規模の大小、緑化技法の多様なことなど変化に富んだ作品に接してきた。都市の中に緑の存在が不可欠なことは今更言うまでもない事柄だが、要は景観的に緑が如何に効果的存在であって人の心をなごませるか、加えてその緑の健康状態が良好であるかが問題なのであろう。

屋上緑化や植樹植栽では経年的なことを考えれば、施工直後はまだしも、年月を経るに従い根づまり、肥料分の不足等、植物の生育環境の劣化が進み、地上の姿に本来あるべき植物の“生氣”が失われ、葉の先端までの水分が届かなくなる。これを防ぐには適切な用土の交換や施肥、排水装置の点検、過剰な枝葉の整理など日々植物への愛情こもったまなざしが求められる。植物に係る施設にあっては竣工式の日が本来の意味での起工式の日となるのではないだろうか。

みどりへの心意気を感じる

今回の審査の対象は事業開発の多い港区ならではの多種多様な作品でした。大面積で地域の環境を継承、拡大する公開空地の緑や建物屋上の人工地盤に創出した特徴的な草原、路地を行きかう人の心を和ませる小さな緑など、街を生き活きと楽しいものにする「みどり」の成果を見ることができました。

この多様に表現された緑の審査にあたり、私が評価のもとにしたものは、開発の大きさ、みどりの規模による判断ではなく、そのみどりが持つ意味や地域環境の問題の解決に繋がっているか、また地域の歴史や文化の価値を活かし、緑の展開技術も評価できるか、そして、その緑に込めた事業者の心意気を作品から感じられるか、それを一番に意識しました。今年の受賞作品は事業規模の大きさでない、その心意気を感じられ、街ゆく人に多くの美しい風景と楽しみを提供しているものが選定されたと思います。



大橋 尚美

港区景観アドバイザー
株式会社戸田芳樹風景計画
取締役 設計室長



山崎 誠子

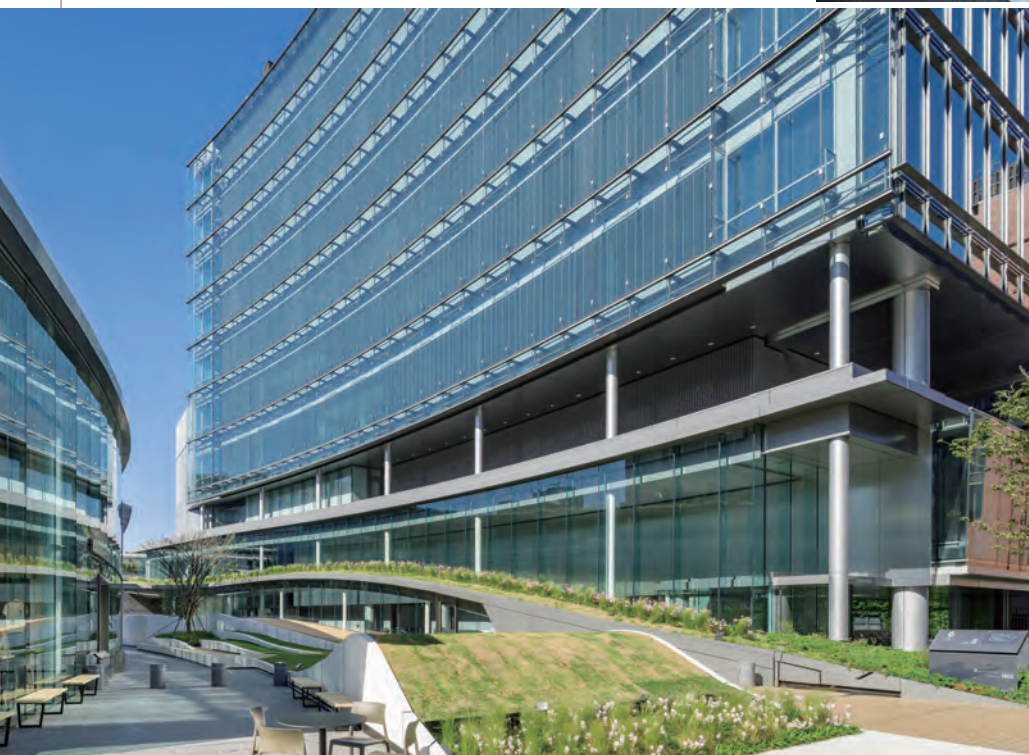
港区景観審議会委員
日本大学短期大学部
建築・生活デザイン学科 准教授
有限会社GAヤマザキ 取締役

頑張ろう！緑化業界

緑化はできるなら条例だけの範囲にしたいと思っているデベロッパー、設計者、管理者は多いと思う。港区の場合、高層になればなるほど緑化面積が広く要求されるので。また、面積を確保してもその緑化を維持する経費のことがネックとなり、とにかく管理しやすい緑化にしたいとほとんどの人が思っている。「緑は嫌われ者ですか？」私は植物が大好きです。だから頼まれれば沢山入れたいし、目立つところに作りたい。でも前述のようなことが最初の条件に入るため、管理がしやすく、多少手入れしなくても枯れない緑化の提案をするにとどまることが多い。だから、沢山植物が入って、さまざまな緑の仕掛けがある作品に羨ましさと賞賛をもって受賞作品として推したい。年々このみどりの街づくり賞はレベルが上がっているの、受賞するには大変ですが、受賞にならなかった候補の植栽設計・植生施工担当者の思いや葛藤、伝わっているものであきらめずこれからも頑張ってもらいたい。

BOATRACE 六本木

事業主：一般財団法人BOATRACE 振興会
設計者：総合・意匠：株式会社石本建築事務所
構造・設備：清水建設株式会社
施工者：清水建設株式会社
所在地：六本木五丁目16番7号
施設用途：事務所、ホール、スタジオ、店舗
敷地面積：3,569.24㎡
高さ：52.42m
景観協議の対象行為：建築物の新築



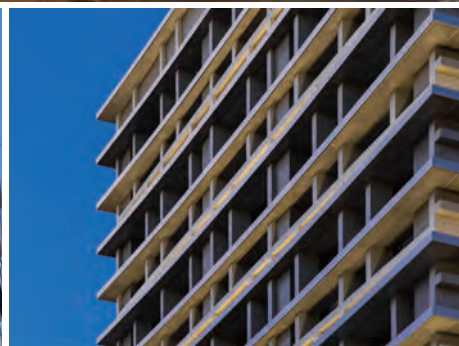
審査委員コメント

- ①特徴のある建築フォルムと併せてT字状に配置したオープンスペースが地域の賑わいと景観に貢献している。外苑東通りに沿ってセットバックして設けられたオープンスペースは、半分は建物のエントランス空間、残りの半分はオープンカフェとなっている。外苑東通りから敷地に引き込むように低層棟と高層棟の間に設けられた高低差のある緑化された中庭空間は、快適な滞留空間としてだけでなく、建物低層部に設けられたイベントスペースの観客席にもなり、敷地内の通り抜け空間ともなっている。
- ②本計画の最も優れた点は、街並みに対する広場の扱いであるといえるだろう。前面道路である外苑東通りから大きくセットバックした水盤や店舗テラス、敷地に対してほぼ直角に延びる北側の道路の流れを敷地奥まで引き込み、低層棟と高層棟の高低差をつなぐ段々広場は、都市景観に広がりと活気を与えている。また、様々な樹種で緑化された広場と低層棟屋上は、歩行者目線だけでなく、周辺の建物から望む豊かなランドスケープを形成し、立体的な視点に寄与する都市景観の在り方を示している。



ルネ麻布十番ビル

事業主：総合地所株式会社
設計者：基本設計・デザイン監修：A.A.E. 一級建築士事務所
実施設計：株式会社長谷工コーポレーション一級建築士事務所
施工者：株式会社長谷工コーポレーション
所在地：麻布十番一丁目5番23号
施設用途：ホテル、店舗
敷地面積：740.67㎡
高さ：34.30m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

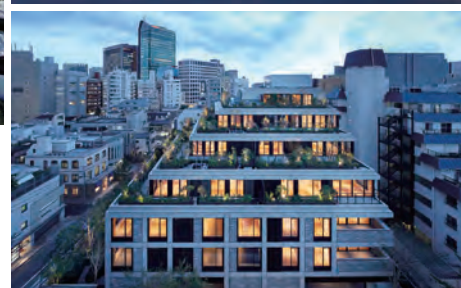
- ① 周囲はどこか懐かしい雰囲気を持つ商店街である。ここでのホテル新築に、こんな選択肢があったのかと驚いた。中でも、暗闇坂に続く通りと麻布十番通りとの交差点に隣接させた低層部の扱い方が、この街への対応として秀逸である。この低層部をテナントスペースとして街に開き、屋上部はテラスラウンジとしてホテル2階のレストランと連絡させている。このテラスラウンジは、オアシスのようにこの街に新たな眺望点と居場所を創出した。テラスラウンジのスラブ線をホテル1階の軒線と意匠的に一貫させているのも小気味良い。
- ② 港区に長く住んでいると、商店街から店舗が消え、賑わいが失われていく様子を幾度となく目の当たりにする。麻布十番商店街の角地という敷地の意味はとても重要である。交差点に隣接して低層の店舗を配置し、街の賑わいと新たな居場所を提供している。航空写真で見ると建てづまった印象もあるが、グランドレベルからはそれを全く感じさせない清々しさがある。敷地の可能性と建物のデザインが調和し、相乗効果により街の魅力を高めている。



Wellith One Aoyama

撮影:フォワードストローク

事業主：エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社
設計者：設計・監理:株式会社アール・アイ・エー
デザイン監修:Conran and Partners
ランドスケープデザイン:株式会社ランドスケープ・プラス
施工者：清水建設株式会社
所在地：北青山二丁目12番44号
施設用途：共同住宅
敷地面積：1,636.11㎡
高さ：24.125m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ① 厳しい敷地の制約条件において高さとボリュームを抑えた共同住宅は、周辺の密集した複合市街地とスケールの取れたものになっている。丁寧にデザインされた打放しコンクリートと割り肌の石材パネルの外壁と小山のように各階テラスにふんだんに配置された緑の組合せは、高質で潤い豊かな風景を創出している。地勢や潜在自然植生にも配慮した多様な樹種の選定や、環境に配慮した植栽技術も評価できる。道路に面した外構壁が閉鎖的で敷地内の緑を遮断しているのが残念である。
- ② 計画コンセプトの中に「青山における豊かな自然と共にあった居住環境と、現代の都心居住環境の融合」とあるように、緑化では計画地周辺の植生を考慮した様々な樹木が植栽されています。植生を考慮した植栽計画は、次世代への自然の継承にも繋がります。また、花や紅葉など四季に楽しみがある彩り豊かな屋上緑化は、上空から見る街の景観の向上が図られていると感じられ嬉しく思いました。屋上緑化の成長による景観の変化にも期待しています。



ナインアワーズ浜松町

©Nacasa & Partners

事業主：東京建物不動産販売株式会社
所有者：東京建物株式会社
設計者：清水建設株式会社
基本設計・監修：平田晃久建築設計事務所
施工者：清水建設株式会社
所在地：浜松町一丁目25番10号
施設用途：宿泊施設
敷地面積：262.76㎡
高さ：38.70m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ①カプセルホテルという閉鎖的になりがちなプログラムに対して、前面道路、州^{すはま}浜の縮景を目指した庭園、前面ガラス張りのレセプションまで一体化した空間を設けることで、街並みと連続した開放的な景観形成を実現している。さらに、設備を積極的に修景しながら宿泊客の憩いのテラスを設けることで、高層化する都市の中で第二の大地として現れる屋上の良好な景観にも寄与している。一方で、中間階の立面や背面には、さらなる景観配慮が期待できたのではないだろうか？
- ②ホテルの前庭で優美に姿を広げる赤松と州^{すはま}浜を思わせる石は和のイメージを創り出しています。2、3階の白い外壁を背景にすると松がより映えると思い、その成長が楽しみになりました。格子をモチーフとした外観は、ガラス窓と白いフレームが空と調和し、外部吹き抜けも建物の圧迫感を軽減していて良いです。歴史的な重要施設が多く存在する浜松町という地域で、コンパクトな施設の中に和の要素がうまく取り入れられており好印象を受けました。



港区アドプト・プログラム—道路・公園のボランティア活動

港区アドプト・プログラムとは

港区アドプト・プログラムは、地域の方々が道路・公園の維持管理（清掃や花壇管理等）を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。

今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となった清掃・修景を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



※掲載している写真には新型コロナウイルス感染症の拡大前に撮影されたものを含みます。

令和3年度景観街づくり賞特別賞 アドプト登録団体 活動継続5年を経過（令和2年度末時点）した団体一覧

	実施団体	場所・種別	活動内容	地区
1	障がい者就労継続支援A型事業所えがおワークス	道路	清掃	芝
2	NDS株式会社 東日本本部	道路	清掃	芝
3	有限会社梓園工房	道路	植栽管理	赤坂
4	公益社団法人 港区シルバー人材センター 高輪地域班	公園	植栽管理	高輪
5	品川シーズンテラスエリアマネジメント事務局	道路	清掃	芝浦港南
6	ダイキン工業株式会社東京支社	道路	清掃	芝浦港南
7	清水総合開発株式会社	道路・緑地	清掃	芝浦港南
8	SN	緑地	花壇管理	芝浦港南

アドプト・プログラム問合せ アドプト・プログラムについて 各地区総合支所まちづくり課土木担当

各 地 区 芝 地 区 03-3578-2032 麻 布 地 区 03-5114-8803 赤 坂 地 区 03-5413-7015
電 話 番 号 高 輪 地 区 03-5421-7664 芝浦港南地区 03-6400-0032

審査会委員総評

審査にあたって考えさせられるのは、①法制度上対応した仕事と、②街の景観への寄与を企図した仕事の関係である。たとえば、斜線制限から建物本体を逃がすために低層部を設けることと、街の景観創造を狙って低層部を設けることは意味が違う。現実的には①を②に読み替えることになる。しかし、いい仕事は、あたかも②を先行させたかのように見える。①から合理的に選択された建築形態を、景観への寄与を目指して再解釈・再編集する計画力・設計力の所産だ。また、敷地の一部が将来の都市計画道路線にかかっているという案件もあった。当然、計画道路にかかる部分を非建蔽地にせざるを得ない。その部分を専用庭として緑化し、現行道路との境界デザインに気を配っても、道路供用後にはこの部分が失われる。それでも、残った部分がなお景観に寄与するように工夫する。そういう難しい仕事を見ることもできた。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長
東京工業大学大学院
社会理工学研究所 教授



倉田 直道

港区景観審議会 副会長
工学院大学 名誉教授
NPO 法人景観デザイン
支援機構 代表理事



港区は、運河など多様な景観要素や歴史的な史跡、庭園などに恵まれている。一方で、その立地から不動産開発が継続して行われており、常に環境や景観が目まぐるしく変化している。景観街づくり賞の対象プロジェクトを見ていると、港区の良好な景観の保全・創出を図るうえで届出による景観の事前協議が貢献しているように思われる。事前協議においては、マイナスな影響を軽減することは当然で、景観を含む地域環境への貢献が必然的に求められる。特に近年は、建物の外観だけでなく緑化や地域に開かれた良質なパブリックスペースの創出が地域環境への貢献として大切である。緑化や公開空地についても基準を満足していれば良いということではない。景観街づくり賞の審査を通して、その敷地に即した地域の環境や景観に貢献する緑やオープンスペースのあり方があることを実感した。

港区景観街づくり賞の受賞施設には、港区ならではの特徴があるように予てから感じてきた。景観は色や緑の事象だと捉えられやすい。そして、調和とは周囲に馴染んで目立たなくすることというやや消極的な解釈も一般化してきた。一方で、建築物のデザインが持つ固有の美しさも大切であり、多様な関係者が協調して特徴的な場所をつくり出す努力も必要である。今回の受賞施設にも共通する特徴であるが、港区の景観を構成する建築物には程よい主張がある。そしてこうした個々の特徴を包含し、他とは比較し難い創意あふれる都市景観を形成しているのが港区の街なみである。街は常に変化している。子供の頃から親しんできた下町の街なみはほぼ滅失したが、高層ビルの間には緑が増え、長く空地だった場所に新たな人の交流が発生する。まちの可能性が評価されているからこそ、力作といえる建築物によって、まちに新たな魅力が生まれる。生まれ育った港区がいつまでも自慢のできる街であってほしい。改めてそう感じた。

田邊 学

港区景観審議会
区民委員



菅原 大輔

港区景観アドバイザー
SUGAWARADAISUKE
建築事務所 代表取締役

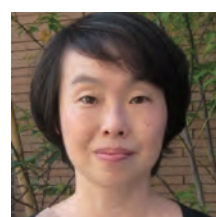


今回の審査では、大きく二つの視点が作品選定の中心になった印象がある。一つは、豊かなみどりの景観が、建物利用者の快適性だけでなく、街並みの向上に寄与しているのか？もうひとつは、道路に対する建物ボリュームと広場の配置で、都市活動の活性化に寄与しているか否かである。街づくり賞に選定された2作品は、この二つの視点に対して真摯に応えており、「BOATRACE 六本木」は、立体的な都市の視点に対して、分棟ボリュームと広場による景観形成の寄与を、「ルネ麻布十番ビル」は交差点に面して低層棟と屋上テラスを配置することで、人と視線の交流を積極的に生みだしている。奨励賞の2作品もまた、2つの視点に対して積極的に応えているが、セキュリティ上、閉鎖的にならざるを得ないプログラムと景観形成のバランスの難しさも提示している。

景観街づくり賞の選定においては、今年も例年通り予備選定から最終審査まで熱い議論が展開されました。港区には新しい施設、建築が日々完成しており、その多くに地域にふさわしい景観に対する想いが込められていると思います。賞の候補にあがった施設は規模も用途も景観に対する配慮も様々でした。景観街づくり賞に選ばれた2施設はどちらも個性的で1度見ただけで印象に残るデザインだと感じており、街のにぎわい作りや景観に対する配慮も伺えました。港区の景観に新しい風を吹き込んでくれたのではないかと考えております。そして、最近のコロナ禍により都心の外部空間の重要性の高まりを感じております。これまでも広場や緑地は景観形成において重要視されていましたが、今後は癒され、くつろぎ、楽しめる快適な外部空間がさらに増えるのではないかと期待しております。

蓮池 ゆう子

港区景観アドバイザー
植栽アドバイザー



新芝運河沿緑地 (みなとパーク芝浦付近)

テーマ:水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

長く親しまれてきたリバーサイド・トリオ(黒川晃彦氏制作1992年)はベンチも作品で、いつ通りかっても、ちょっと一休みするのもいいな、という気分してくれる。ガス灯ものんびり感を醸し出し、運河沿いを歩く楽しみを高めてくれたのではないだろうか。水辺と暮らしが密接な港区らしい魅力ある空間を創り出している。



応募者からの推薦コメント

ベンチに腰掛けて演奏する3人組のブロンズ像と横を流れる運河沿の遊歩道は、日頃の疲れをしばし癒してくれる市民の憩いの場となっています。またこの遊歩道の10基のガス灯は、某ガス会社がこの地から石炭の積み下ろしをしていたことを後世に伝えるために設置されたとのことで、明治時代の文明開化を彷彿させる芝浦のシンボルの一つともいえる。 応募者:岡部 正実(区内在住)

有栖川宮記念公園の水辺

テーマ:水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

起伏のある地形の園内には溪流、滝、池などがあり、夏是水辺で楽しむ子供たちの声も聞こえてくる。春は桜、秋には紅葉など四季により表情を変える水景は訪れる多くの人々に親しまれている。今後もこの歴史ある公園の風景を大切にしたい。

応募者からの推薦コメント

有栖川公園の水辺は都会の中心とは思えない静けさです。 応募者:柳原 順子(区内在住)



檜町公園の水辺

テーマ：水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

長州藩毛利家下屋敷に檜林があり檜屋敷と呼ばれていた縁で、現在の名称となっている。赤坂からの上り坂は通勤の難所だが散策や運動に人気だ。斜面に広がる水と緑は、季節と地形を満喫できる都心の宝として大切にしたい。

応募者からの推薦コメント

江戸時代毛利家の下屋敷で「清水亭」は名園と名を馳せました。2009年東京ミッドタウン誕生時一体化開発で整備されましたが、水辺には鴨や鳥番（今回の主役）等の水鳥が集い、人工ではあるが渓谷のせせらぎ、四季折々の美しい草花は私たちの五感に優しく響く癒しの空間です。

応募者：古川 久江（区内在住）



新芝運河とウォータータクシー

テーマ：水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

東日本大震災後、水上交通も見直され、水上タクシーが田町駅近くの防災船着場に就航。運河の歴史と活用が改めて注目された。夜、ライトに照らされた船が、住む、働く、遊ぶ、に賑わいを呼び込んでくれそうで期待される。

応募者からの推薦コメント

交通手段でもあり、新たな景観ともいえる。

応募者：丸山 孝典（区内在住）



芝浦西運河（渚橋の近くから）

テーマ：水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

江戸では河川や水路を船が往来し、街は水面とともに賑わった。戦後に交通の中心が陸に移行して水面は街の表舞台から遠ざかったが、その水面がまた脚光を浴び出した。これは運河にモノレールを絡めた複合的な交通景観で印象的。港区ならではの。



応募者からの推薦コメント

浜松町と羽田空港を結ぶ東京モノレールと芝浦西運河。夜明けのコラボ風景が美しいです。

応募者：寺田 順彦（区内在住）



レインボーブリッジから見る芝浦埠頭

テーマ：水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

わが国で第二次産業の景観が注目され出したのは1990年ごろから。工場萌え現象は2000年に入ってからだ。以前は、第二次産業とそれを支えた港湾の物流空間が美的に眺められることは稀だった。その物流空間に目が向けられて、これは記念碑的。



応募者からの推薦コメント

レインボーブリッジの遊歩道を歩いてみると、眼前には芝浦埠頭のコンテナ群と、その先には東京タワーが。はじめて見る光影に圧倒されてしまいました。

応募者：浅越 義弘（区内在勤）

レインボーブリッジのループ橋（海岸三丁目から）

テーマ：水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

橋は視対象であり、同時に視点場でもある。レインボーブリッジのループ橋は、直線基調の都市の中に忽然と現れた巨大な円弧の造形物で、それ自体が固有の誘目性をもつ。また、ループ橋を走行する自動車やゆりかもめの車窓からは、芝浦や海岸の街並みと東京湾の水辺が一つのシークエンスとして楽しめる。



応募者からの推薦コメント

このループの側を通ると、その輪の中にレインボーブリッジ、ゆりかもめ等があり、あたかも望遠鏡で見る景色と見間違える。そして海、空と雲はこのループの雄大さを引き立たせ、あたかもループ橋が空中に浮いているように景色を演出する。

応募者：石綿 修一（区内在住）

港区の象徴的な建造物である雄大な橋と、どこまでも続く空と海。

応募者：丸山 孝典（区内在住）



レインボーブリッジのループ橋とスカイライン

テーマ：水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

港区のみならず、東京のランドマークともいえるレインボーブリッジは、多くの視点場をもち、水辺の都市景観と合わせた様々な表情を見せる。そして、水面と空を背景に、美しい幾何学のスロープ橋と起伏豊かな都市のスカイラインが織りなすその風景は、幻想的ともいえる。



応募者からの推薦コメント

一昨年に放送されたドラマでも、主役の一人の一番好きな風景であると設定されていましたが、街から海にせり出すこのループ橋は、さながら、「街や人の営み」と「海や自然」との間に架かる橋のように見えます。

応募者：一之瀬 稔（区内在住）

港区区民景観セレクション

芝浦中央公園の水辺

テーマ：水とともにある港区らしい景観



選定にあたっての評価コメント

水処理施設の上部にある人工地盤の公園。園内には湿生花園もあり、様々な水辺の生き物を見ることができ、地域の人々の憩いの場となっている。豊かな自然の中から見る高層ビルの広大なスカイラインが港区という都市の中の公園らしい。



応募者からの推薦コメント

子供とよく訪れる場所です。水辺の生き物や植物をたくさん見ることができます。春にはオタマジャクシ、夏にはザリガニが釣れたり、都会にいながらにして四季を十分に感じる事の出来る場所です。

応募者：荒川 晶（区内在住）

港区区民景観セレクション

旧芝離宮恩賜庭園（西湖の堤とポートデッキ）

テーマ：歴史・文化を感じる景観



選定にあたっての評価コメント

旧芝離宮恩賜庭園は、江戸初期に大久保忠朝の上屋敷に作庭された回遊式庭園である。西湖の堤は中国杭州にある西湖の蘇堤を模した石造りの堤で、江戸の人たち憧れの美観を表象している。周辺を高層ビルに囲まれた今日にあって、人工的造形物と自然との調和を感じさせる堂々たる風格で来園者を魅了している。



応募者からの推薦コメント

歴史を刻んできた橋から望む、新たに歴史を刻み始める橋（歩行者デッキ）。浜松町駅から日本庭園を眺めながら海へと向かう空中散歩道。

応募者：岩本 修一（区内在勤）

港区区民景観セレクション

青山霊園とスカイライン

テーマ：歴史・文化を感じる景観



選定にあたっての評価コメント

季節の色づき豊かな青山霊園は、時代を牽引した著名人たちが、西欧の雰囲気をもった外国人の墓地によって、様々な表情を見せる。さらに、緑から垣間見える高層ビル群は、過去から現在までの港区の豊かな歴史を示す風景である。



応募者からの推薦コメント

青山墓地として古くから親しまれてきた青山霊園は、単なる墓地以上に、歴史的な人物の眠る場所として、散策しながら日本の歴史を辿れる貴重な場所である。

応募者：麻生 良二（区内在住）

審査会委員総評

港区が水の都であることを実感させる景観セレクションとなりました。高層建築のスカイラインや構造物とセットになった大都会ならではの、水面。その大都会だからこそ貴重な、動植物とともにある水面。様相も規模も多彩。中には、法律に抵触した水面利用が理由で選定に漏れた、しかし魅力的な水辺もありました。日頃見落とされている良好な景観を再発見して周知する区の「区民景観セレクション」では取り上げられず、残念に思いました。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長
東京工業大学大学院
社会理工学研究所 教授



杉山 朗子

港区景観審議会 副会長
株式会社日本カラー
デザイン研究所
研究フェロー

応募を拝見し、改めて港区の立地と地形、歴史、生業、まちとしての機能の幅広さを感じました。時代ごとの地域の姿を彷彿とさせてくれる場所も多く、感慨に打たれます。近年整備された場所では、年を経て住民の生活になじみ評価されたというものもありました。生活が変化し価値観が変化しても支えてくれ、これからも支えてくれるだろうまちの姿を沢山見られたように感じました。今後も多くの方に紹介したい場所や景観の推薦を期待します。

今回のメインテーマは「水とともにある港区らしい景観」でした。子どもの頃を思い起こすと水に親しめる場所は意外に少なく、港区が水辺の街であることを意識できる景観は限られていたように感じます。特に湾岸や運河沿いはどこも立入禁止で、公園の池は水に触れることもはばかれる状況でした。水と触れ合うことの重要性が広く理解され、水辺に開いた場所が数多く整備されていることは大変喜ばしく、東京湾奥に位置する港区らしさを創出するためにも大変重要な転換だと思えます。

田邊 学

港区景観審議会
区民委員



菅原 大輔

港区景観アドバイザー
SUGAWARADAI SUKE
建築事務所 代表取締役

その太古の昔から、港区の多くはかつて海であったと言われ、正に今回のテーマである「水とともにある」土地であるといえるでしょう。

応募写真の多くは、それを証明するかのよう、ビル群や倉庫街、史跡や庭園など、規模感や密度、賑わいの異なる多様性豊かな港区の風景の中に、海、川、池、堀などといった魅力的な水辺を多く見ることができました。

都市でも水辺の活用が注目を集める現在、改めて、区民の方に愛されている水辺の魅力に気付かされました。

港区には海辺や運河、河川など様々な水辺空間が身近にあり、その景観は区の大きな魅力のひとつです。今回のメインテーマ部門は「水とともにある港区らしい景観」でしたが、海から街を望むダイナミックな景色から、街の人の暮らしが垣間見えそうな運河沿いの風景、歴史ある公園の水景、味わい深い河川の表情、橋の構造美など多様な応募景観の数々に区民の皆様のわがまちの水辺に対する情熱を感じました。

蓮池 ゆう子

港区景観アドバイザー
植栽アドバイザー





みどりの街づくり賞

港区環境リサイクル支援部 環境課

港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2330

景観街づくり賞・区民景観セレクション

港区街づくり支援部 都市計画課

港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2210